

2024 年度（令和 6 年度）学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番 36	福山市立伊勢丘小学校
最終更新日		2025年（令和7年）2月17日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	思考力・表現力 人とかかわり
各学校が特色ある教育活動を推進しており、活動のねらいや内容も明確となっている。もっと保護者・地域に積極的にアピールし、地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。	・児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。 ・必要な情報を読み取り問いや相手に応じて適切に表現することに課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。」 ・論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え、主体的に行動できる。
		中学校区として統一した取組等	① 児童生徒が必要な情報を読み取り適切に表現する「学びづくり」の推進 ② 自尊感情の高揚へつなぐ「クリーンプロジェクト」の推進

III 自 校

III 自 校

ミッション

共に創る学校

学校教育目標

自ら学び 人間性豊かな子を 育てる
～未来を拓くリーダー性を育てる

現 状

<児童生徒>

○学力調査等から、児童は学習への意欲が高まり基礎的・基本的な学力は定着している。一方で「複数の資料を関連付けてまとめる」「複数の情報から必要な情報を見つける」「条件等にに合わせて工夫して表現する」ことに課題がみられた。

○様々な学校行事・児童会活動に主体的に取り組ませることにより自己肯定感が高まっている。一方で不登校傾向の児童が増加するなど学校生活に適応できない児童も増加している。

○体育授業において、個々の目的に応じた環境を設定し児童の運動への意識は高まった。一方、日常の運動量には個人差がある。

<授業>

○全員が指導案を書いた授業研究を行うことで、教材・単元のねらいに重点をおいた授業改善を進めることができています。

○児童一人一人の課題に着目することで、苦手を改善する為の手立てを学年間で交流することで、学力を伸ばすことができた。

○教師主導の学びからの脱却をはかり学習指導要領の目指す主体的・対話的で深い学びを創っていく必要がある。

育成する力
(21世紀型“スキル&倫理観”)

めざす子ども像

研究

めざす授業の姿

.....リーダー性.....

①生きて働く知識・技能 ②思考力・表現力 ③他者と関わる力 ④全力でやりぬく力

① 知識をつなげて理解し、活用する子

② 「なぜ？」を大切に、じっくり考え、決め、表現する子

③ みとめ合い、協力して取り組む子

④ あきらめず挑戦し、最後までやりぬく子

「分かる・できる・つかえる」を実感する学びの創造
～ 見方・考え方ははたらかせ活用を意識した単元デザインを通して ～

○ 単元の目標に向かう見方・考え方ははたらかせ、活用場面を充実させた単元デザイン

○ 教科等の見方・考え方を明確にし、問題解決を促す発問や場の設定の工夫

○ つまずきを乗り越えるための支援の在り方

児童が、教科等の見方・考え方ははたらかせ、
「分かる・できる」を実感するとともに、「つかえる」につながる授業

・児童が知的好奇心を発揮し、既有的知識や経験をもとに、問題を追求する。

・児童が、自らの考えを適切に表現したり、対話したりして、見方・考え方を身に付け、多様な
場面で知識・技能を活用する。

・児童自身が学習を振り返り、自己の成長や課題に気付いて、粘り強く取り組む。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立伊勢丘小学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							目標に係る 取組状況	達成 評価	達成 評価	改善方策	目標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的に学び 続け、協働 的・創造的に 活動する児童 の育成	★	継続	児童の「わ かる・でき る・つかえ る」を実感 する学び づくりの 実現	・模擬授業を基にした教材研究 ・自分の課題や興味関心に合った学習内容を選択して取り組む場を設定する。(授業や帯タイムの充実) ・学校図書館の活用をカリキュラムマップに位置づけて取り組む。	○児童の肯定的評価 90%以上 ・「わかる・できる・つかえる」と思う (昨年 92%) ○評価問題達成度 85%以上 (昨年 国語 85.7%、算数 84.3%) ○学校図書館の教科等利用回数を、昨年の2倍にする。(昨年 86回)	○児童の肯定的評価 ・「わかる・できる・つかえる」と思う 91.9% ・評価問題達成度 国語 84.1% 算数 85.6% ・学校図書館教科等利用回数 88回	3	3	○授業のねらいと児童の実態に即した、模擬授業と学びづくり案検討を行い、授業改善を図る。 ○情報を選択したり、自分の考えを他者に伝えたりする活動を位置付けた授業づくり。 ○学校図書館の利用を促し、授業での活用を増やすことで資料の活用ができるようにする。(週に1回以上)	○児童の肯定的評価 ・「わかる・できる・つかえる」と思う 93.8% ・評価問題達成度 国語 86.0% 算数 81.3% ・学校図書館教科等利用回数 203回(1月末)	4	4	4	○「主体的で対話的で深い学び」を実現するために、一人一人の課題を分析し、授業改善に活かすと共に、評価の充実を図る。 ・引き続き学校図書館を活用できる取組を充実させたり、カリキュラムを再設定したりする。
			継続	関わり合い、認め合う創造的な活動による自己肯定感の向上	・一人一人が自らの役割を自覚し、創造的・協働的に取り組み、やりぬく活動の設定(年間3回) ・児童が互いの良さや違いを認め合い安心できる学級づくり(環境整備・学級経営)	○児童の肯定的評価 90%以上 ・自分で考え、挑戦した(昨年 88%) ・学校で安心してすごすことができる(昨年 92.6%)	○児童の肯定的評価 ・自分で考え、挑戦した 90.3% ・学校で安心して過ごすことができる 91.8% ・委員会活動を中心に児童が企画運営する行事を行うことができた。 ・教室環境など、子ども達が安心して過ごすことができる環境づくりに課題があった。	4	3	○児童同士が認め合える活動「ウキウキタイム」の設定 ○環境整備や全体のルールの共通認識を深めていく。	○児童の肯定的評価 ・自分で考え、挑戦した 86.4% ・学校で安心して過ごすことができる 90.4% ・友達の下さや頑張りを認める「ウキウキタイム」の設定で自己肯定感の向上を図った。 ・縦割り活動で「掃除マイスター」を目指して、異学年で協力して掃除に取り組むことができた。	3	3	3	○生徒指導事案の早期発見・早期解決を目指し、組織的な指導体制の充実。 ○委員会やクラブ活動、総合的な学習の時間を中心に、PDCAサイクルを回し、児童が付けた力を明確にできるようにする。また、振り返りカードを活用し、1つ1つの行事や活動に繋がりをもてるようにする。
			継続	自らの健康・体力に関心をもち、意欲的に取り組む態度の育成	・児童自らが、自分に合った目標を決め、取組方法を改善していく活動を設定した授業づくり ・運動遊びタイムの設定(体育館解放週間の設定)	○児童の肯定評価 90%以上 ・体育科の学習で、児童が自分にあった学習方法で学習することができる。 ○実施率 100%	○児童の肯定的評価 ・「体育の学習で、自分に合った課題で、健康体力づくりに取り組んだことがある」 88.7% ・「運動やスポーツをするときに楽しい」と思うことがある」 94.3% ・体育館開放を行い、多様な動きに親しむ機会を設けられた。	4	3	○主に授業を通して、課題に応じて、児童が選択して課題に取り組む機会を増やす。	○児童の肯定的評価 ・「体育の学習で、自分に合った課題で、健康体力づくりに取り組んだことがある」 87.1% ・「運動やスポーツをするときに楽しい」と思うことがある」 94.7% ・体育館開放を行い、体力テストで課題にあった種目の向上を図った。	4	3	3	○一人一人の課題に応じた授業作りの研修を行い、学校全体で取り組みを共有する。 ・引き続き、体育館開放を行い、運動に親しむようにする。
2	信頼される学校づくりの推進		継続	子供、保護者・地域、教職員の満足度の向上	・教職員一人一人の課題意識をもった取組の実施	○児童・保護者・教職員の肯定的評価 95%以上 ・児童の学校が楽しい(昨年 93%) ・保護者の子どもを伊勢丘小学校に通わせてよかった(昨年 98%) ・教職員の個性が認められ、やりがいがある(昨年 95%)	○アンケートの肯定的評価 ・児童「学校が楽しい」90.3% ・ミュージックフェスティバル後の地域の方のアンケートでは、児童の姿と学校の取組に対して、高評価を頂いた。 ・教職員「個性が認められ、やりがいがある」94.1% ・日々の活動や行事において、教職員が狙いを明確にして、協力して取り組むことができた。	4	3	○月1回以上HPを更新し、学校や各学年の取組を保護者や地域に発信していく。 ○通信では、取り組みの報告だけでなく、児童について力や成長したことを伝えていく。	○アンケートの肯定的評価 ・児童「学校が楽しい」88.3% ・保護者「通わせてよかった」96.4% ・HPの更新や、通信やクラスルームで授業や活動の様子を知らせる回数を増やし、周知するよう努めた。	4	3	3	○児童一人一人、保護者一人一人の思いに寄り添い、全職員で情報共有しながら、取組を進めていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。